

宗 教 法 人 カ ト リ ッ ク 札 幌 司 教 区

CATHOLIC BISHOP'S RESIDENCE
10 HIGASHI 6 CHOME KITA 1 JO
CHUO-KU, SAPPORO, 060-0031 JAPAN



カトリック札幌司教館
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10
TEL 011-241-2785 FAX 221-3668

教 区 1 0 0 周 年 式 典 訓 話

教区百周年を祝い、第2世紀の始まりの年を今日、皆さんと祝うことができることを心から嬉しく思います。

遠くからお越しいただいた司教様方、各修道会の代表の方々をはじめ、全道各地からこの会場へお集まりいただいたみなさんに感謝いたします。また、この日の典礼とともに祝う全道の小教区の皆さんにも、喜びのメッセージとともに祝福を送ります。

先程、札幌教区第二世紀に向けて、教区内各地区から、報告と提言をいただきました。この提言を依頼した目的は、単なる現状報告や課題の羅列ではなく、明日につながる具体的な提言をいただくことです。つまり、教会内外の動きを把握し、識別するなかから、未来に向けての具体的な取り組みを信徒全員で共有し、支援実行していくためのものです。

教皇さまは次のように言っておられます。

「宣教を中心にした司牧では『いつもこうしてきた』という安易な司牧基準を捨てなければなりません。皆さん是非、自分の共同体の目標や構造、宣教の様式や方法を見直すという課題に対して、大胆かつ創造的であってください。目標を掲げても、達成のための適切な手段の探求を共同体が行わなければ、単なる夢に終わってしまいます」

(フランシスコ教皇 使徒的勧告「福音の喜び」33)

そして、多くの貴重な提言をいただきました。特に、印象深いのは「建物と共同体」にかかわる提言です。「建物に頼らない共同体とは」という問いかけは、高齢化と信徒数の減少によって、建物としての教会を維持することが困難になってきている中、建物がなくなっても生き生きとした宣教する教会共同体をそこに保ち続けるためにはどうしたら良いかを問うものでした。その先の小教区の統廃合も視野に入れたものです。

しかし、旭川の4教会ではあえて小教区を存続させる決断をし、その為に小教区を活性化するための具体的な方策を数多く打ち出しました。そして、本気でそれを実践しようとしています。そこに教会が変わりつつある兆しを感じ取ることができます。

同様に、静内の共同体の例も、あえて建物を維持する選択をすることによって、思わぬ方向へ神が導いてくださっている例でしょう。これらは、「建物に頼らない共同体」というある意味、建物を撒収したうえで共同体をどう維持活性化するかというマイナスからの発想の問いかけに対して、建物を考える限りの方法をもって神の為に利用することによって維持しようとする別の方向への気づきを与えてくれます。す

宗教法人 カトリック札幌司教区

CATHOLIC BISHOP'S RESIDENCE
10 HIGASHI 6 CHOME KITA 1 JO
CHUO-KU, SAPPORO, 060-0031 JAPAN



カトリック札幌司教館
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10
TEL 011-241-2785 FAX 221-3668

なわち教会堂をその地域の信仰のシンボルとし、宣教の拠点として活用するという本来の宣教の在り方への回帰が、信者数に関係なく現状でもできることの証しと受け止めることができます。

また、釧路地区や苫小牧地区そして北見地区からなされた報告にあるように外国籍の人々とのかかわりの中に、未来の教会のヒントと希望を見出すことができます。外国籍の方々の存在は、私たちの硬直した教会観を変え、大きく広げる可能性を秘めています。たとえ短期の滞在であり、転入手続きをしていなくても、彼らが日本人と同じ小教区民であることを忘れてはなりません。日本の教会は「日本人の教会」という意味ではないのです。

また、どの地区よりも信徒の少ない北見地区がどの地区よりも多い信徒の奉仕者を任命していることも興味深いことです。これは「洗礼を受けた一人一人が宣教者なのです」(福音の喜び120)と言われた教皇様の言葉を実現するものです。教皇様はこうも言われています。「だから資格のあるものだけがそれを進め、残りの信者はこれを受け取るだけと考える福音宣教の図式は適当ではありません。新しい福音宣教は、洗礼を受けた一人ひとりが主人公であることを意味しなければなりません」(同上)。すべての信者が福音宣教者であることをさらに深め実践して行ってほしいと思います。

長年、青少年に対する課題も問われ続け、効果的な対応が取れずにいた中で、札幌や函館では、今までの小教区中心の教会組織のなかでの活動とは違う新しい形での動きが見られます。組織によらないネットワーク的なつながりを通じた活動やミッションスクールのつながりを通じた青少年活動です。これらも今後どのように展開していくか見守り支援していきたいと考えています。

その他、多くの提言がなされていますがすべてに触れることはできません。しかし、どんな小さな提言も、実践する中から新たな道が開けてくる可能性があります。確かに、これら提言による実践活動がすべて実を結ぶかどうかは分かりません。無駄な努力だったということになるものもあるでしょう。しかし、何もしないところからは何も起こりません。また、意外なところから未来への展望を開くうねりが生まれるかもしれません。神は、いつも人間の思惑を超えて働かれるからです。明日に向けてのささやかであっても希望を感じさせてくれる多くの種を植え育てることによって、そこに神が働かれることを私たちは確信しています。人間の業は小さなものです。しかし、誰かが始めたその小さな業が、多くの時代を変える力となっていったことを私たちは知っています。私たちの切なる祈りをもってなされる行いに神は必ず応えてくださり、教会の未来を照らしてください。

最後に、提言の終わりになされていた「家庭での祈り」の勧めを、私も強く支持します。特にこれから家庭を持つ人々に強く勧めます。信仰の伝達は、組織や知識によってではなく、家庭とそこでの祈りによってなされるものです。特別なことをするように勧めるものではありません。たとえばわずかな時間であっても、夕食前に家族が家庭祭壇に集まり、一日の感謝と明日への祈りを毎日捧げることが家族の信仰と絆の為に大きな助けとなります。日々、どのように家族のかかわりが変化しようとも、たとえば夫婦喧嘩や親子喧嘩の最中であっても、神の前に等しく頭(こうべ)を垂れ、へりくだって口に出される毎日の家族それぞれの祈りは、その時々家族の願いや関心事を皆が共有し神に委ねる明日への祈りとなります。子

宗 教 法 人 カ ト リ ッ ク 札 幌 司 教 区

CATHOLIC BISHOP'S RESIDENCE
10 HIGASHI 6 CHOME KITA 1 JO
CHUO-KU, SAPPORO, 060-0031 JAPAN



カトリック札幌司教館
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10
TEL 011-241-2785 FAX 221-3668

どもが言葉を理解する前からなされ、十数年、場合によってはそれ以上の年月、日々積み重ねられる祈りの時間は、家族の絆を強め、信仰を育み、かけがえのない家族の心の財産を築き上げることになるでしょう。

教皇様の言葉をもって終わりにします。

「課題は克服するためにあるのです。現実を直視し、しかし喜びを失うことなく、大胆に希望に満ちて献身しましょう。宣教する力を奪われないようにしましょう。(福音の喜び 109)

皆さんの上に神の豊かな祝福がありますように。

2016年9月4日、教区100周年式典に当たって、
札幌教区司教 ベルバルド 勝谷 太治